

Akira Hayami,

*The Historical Demography of Pre-modern Japan*

University of Tokyo Press, 2001, viii + 191pp.

本書は、日本の歴史人口学のパイオニアである著者が岩波市民セミナーでの講義をもとにまとめた、『歴史人口学の世界』（岩波書店、1998）の翻訳（英語）版である。著者は、研究論文やモノグラフが出版され、日本の歴史人口学という分野が日本内外で認知されつつある現在、広く、多くの人々に史料の性質や整理方法などを紹介する入門書の出版の必要性があることを説き、この著作を歴史人口学の入門書として位置づける。確かに、現在日本の歴史人口学の成果は、日本内外で精力的に発表されている。このような研究環境において、これまで日本語を読解できない研究者には閉ざされていた世界、すなわち、宗門改帳という原史料とここから作成されるデータの整理方法、さらにその分析結果が詳細に説明されている。したがって、英語の読解力を持つ研究者が日本の歴史人口学を知るチャンスがこの著書は与えてくれる。本書は、人口と家族を社会の「基層」として位置づけ、人口研究の意義を明らかにする。次に、ヨーロッパにおける歴史人口学成立の過程、そして、わが国の歴史人口学について詳細な説明がなされている。全国を対象とした国勢調査以前の社会について、幕府の人口調査などのマクロ・データを用いた人口推計、そして、宗門改帳・人別改帳といった原史料の性格や問題点、また、この史料から作成されるミクロ・データについて詳しく説明されている。さらに、実際にこのデータを用いた観察・分析方法とその結果が紹介され、最後に歴史人口学の課題と展望について述べられている。また、近世日本のシステムや制度に関しては日本語の原著にはない Appendix で若干の説明がされている。本書は、以下の6章と Appendix から構成されている。

Chapter 1 Introduction to Historical Demography: History and Population

Chapter 2 The Establishment and Development of Historical Demography

Chapter 3 Population Trends Based on Macro-Data

Chapter 4 A Demographic Overview of Early Modern Japan Based on Micro-Data: Population, Family Reconstitution, and Households in Suwa gun, Shinano Province

Chapter 5 Demographic Aspects of Tokugawa Japan Based on Micro-Data: Nishijo mura, Ampachi gun, Mino Province

Chapter 6 Historical Demography and Family History: A Conclusion

Appendix

本書の中で、歴史人口学の醍醐味を知ることができるのは、実際に諏訪地方と美濃国安八郡西条村の宗門改帳を用いたモノグラフからの抜粋である Chapter4 と5である。これらの章の中では、基礎シート（BDS）などの史料の整理法が具体的に紹介され、分析結果から当時の農民の一生が明らかになっていく。私たちに多くの示唆と歴史人口学の可能性を明示してくれるのが Chapter6である。著者が代表を勤めた創成的科学研究費による「ユーラシア社会の人口・家族構造比較史研究」の目的の1つともなった、歴史人口学と家族史の共同研究の必要性が強調される。これは、宗門改帳という史料には、教区簿冊からは得ることが不可能な世帯に関する情報が満載されており、この史料ならば人口と家族を結びつけた独自の研究が可能になる、と著者は主張する。その方向性を著者は、近世日本の人口・家族形態の地域類型をシミュレーションを使って提示した。宗門改帳という史料の計り知れない魅力と日本の歴史人口学の世界の発展性をこの著書は示唆しているが、この広がりを実証するモノグラフを発表していくことが次の課題である。（岡田あおい／帝京大学文学部社会学科）